

GPW 奨学生報告書 2019年度後期

平素よりお世話になっております。NPO 法人アクションの山本です。

2019年度は6名の奨学生に対して支援を実施しました。本年度終盤の3月に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言が大統領により発令されました。これにより、学校が休止となり、本来実施を予定されていた4学期の期末試験及び卒業式や進学式等の行事も全て中止となりました。それに伴い、生徒たちの進学及び卒業の可否は、3学期までの成績で判断されることとなりました。

それぞれのこども達の状況と様子を下記の通りご報告させていただきます。

【現奨学生の様子】

①Balanquit, Reymon P. (11年生)

中等教育後期過程¹に進学し11年生になったレイモンは、非常に真面目な態度で学業に取り組んでいます。レイモンの好きな教科は数学だそうです。先生の教え方が非常に明快で理解しやすく、興味をもって授業を受けることができるからが理由とのこと。一方、家庭科の授業が苦手教科だそうです。家庭科の授業は覚えることが多く大変だと言っていますが、成績を合格できるように頑張っており取り組んでいるとのこと。また、後期過程での勉強は、課題として与えられる論文なども多く、課題提出に忙しく追われているとのこと。授業や課題、試験に真面目に取り組んだ甲斐もあり、無事11学年を合格し、義務教育過程の最終学年である12学年に来年度は進級することができました。

一方で、青空教室の参加率が低くなっているという課題も抱えています。青空教室の参加率が低くなっている理由としては、甥っ子の面倒をみないといけなかったり、学校の活動が入っていたりして、青空教室に参加できないことが多いと本人は説明しています。レイモンが青空教室以外にもやらなければならないことがあるというのは理解できるのですが、他の奨学生たちは責任感を持って、自分のスケジュールとうまく折り合いをつけながら青空教室に参加しているので、レイモンにも責任感を持って参加するように促し続けていきたいと思っています。

レイモンは来年度に12学年となり卒業が控えています。卒業後の進路に関しては、まだ決まっていないとのこと。これから、しっかりと話し合いを行いながら、卒業後の進路の決定に関してアドバイスをしていければと考えています。

¹ 中等教育後期課程：日本の高等学校教育に当たる課程。

②Bautista, QM D. (11年生)

11年生になったキューエムは、いつも元気良く、学校やアクティビティに取り組んでくれています。学校の授業では電子工学の科目が好きな教科となっているとのこと。電子工学の授業では、携帯電話や機械の修理の仕方を学んだりもするとのこと。キューエムは、その授業で学んだスキルを使って、近所の人携帯電話の修理し、お小遣いをもらうこともできたと嬉しそうに話していました。また、英語のリーディングとライティングの授業も楽しいとのこと。中学校時代に苦手としていた英語が彼にとっての好きな教科に変わったことを非常に嬉しく思います。一方、エンパワーメントテクノロジーの授業は苦勞をしているとのこと。エンパワーメントテクノロジーとは人間の能力を高めてくれるような技術に関する科目で、主にコンピューターの使用などについて学びます。キューエムはこれまでにあまりコンピューターを使用することがないため、コンピューターの使用に関しての知識が乏しく、授業が大変だと言っていました。また、その成績も低めのものとなってしまいました。そのため、当団体アクションの事務所のコンピューターを使って練習するようにキューエムに提案をしました。現地スタッフも彼にマイクロソフトオフィスの使い方を指導するなどしました。こうした努力により、キューエムは無事に11年生を合格し、最終学年の12年生へと進級することができました。

週末はマーケットで家計を支えるためにアルバイトも続けており、更に高校に進学して課題提出などで忙しくなったにも関わらず、キューエムは非常に積極的に青空教室にも参加してくれています。青空教室に参加して子ども達を指導することが自分の義務としてしっかりと認識できており、また、参加した子ども達にも忍耐強さを持って指導をしてくれています。勉強を第一優先として重きを置きながらも、その他のアクティビティにも積極的に参加しており、キューエムの成長を非常に感じられた一年となりました。

③Caranzo, Cristy B. (11年生)

中等教育後期過程11年生のクリスティは、今年度の成績に関して大きな問題を抱えることなく無事11年生の学業を終えることができました。担任の先生からも、聡明で責任感の強い生徒であるという評価をもらっています。しかしながら、クリスティ本人としては、今年度は非常に勉強に苦勞したと言っています。中等教育前期課程に比べて、後期課程は授業科目の内容が非常に難しくなったと言っており、特に Reserch Subject の教科は難しく苦勞したと言っています。また、彼女はパソコンを所有していませんが、Reserch Subject はパソコンを使用して調査する必要も多いという問題を抱えていました。そのため、

毎週土曜日に当団体アクションの事務所に訪問し、事務所のパソコンを使用して、この教科の提出課題に取り組みました。

青空教室にも非常に高い出席率で参加しています。昨年度までの中心的な存在であったプレシャス、カルロータ、ジョルナリンの役割をしっかりと引き継ぎ、中心的な存在として活躍してくれています。青空教室の内容を決めるミーティングでは、しっかりと自分の意見を述べ、積極的な参加を見せています。また、同じ奨学生にも、青空教室への積極的な参加を促す等、中心的な存在として頑張っています。

今年度のクリスティは中等教育後期課程に進学し、学習環境が変わり、それに伴い、課題の提出や試験においてストレスを感じることも多くなったようです。それが原因で、体重も以前より減量してしまったとのこと。また、彼女は高校卒業後の自分の進路についても深く悩んでいるとのこと。彼女には進路において二つの選択肢があり、ひとつは大学に進学し勉強を続けることと、もうひとつは卒業後すぐに就職をすることです。現在家計を支えてくれている彼女のお姉さんのひとりが間もなく結婚し、自分の家族を持つようになるという事情があるため、クリスティが家計を助けるために卒業後に就職することも選択肢のひとつとして考えているとのこと。クリスティは来年度に卒業予定となっています。クリスティが自分の思いに沿った進路の決定ができるように、サポートしていければと思います。

④Liquidio, Joven A. (12年生)

今年度、ジョベンは義務教育課程の最終学年である12年生で学業に励みました。最終学年ということもあり、学校の課題も多く、勉強が大変だったと言っていました。特に、卒業課題としてグループでの論文製作が与えられ、それが一番大変だったと言っていました。グループでの課題であったのですが、グループのメンバーの何人かは非協力的であったため、取り組みに非常に苦労したとのこと。しかしながら、最終的には無事論文の提出ができたとのこと。また、学期毎の試験もしっかりとこなし、ジョベンは高校を卒業することができました。新型コロナウイルスの影響で、残念なことに卒業式は実施されませんでした。ジョベンが義務教育過程をしっかりとこなし、無事に高校を卒業できたことを非常に嬉しく、また誇らしく思います。

青空教室でも、最年長としての自覚をしっかりと持ちながらアクティビティに参加してくれました。青空教室に参加している子ども達に対してだけでなく、奨学生の他のメンバーに対してのお手本ともなるように意識を持ちながら取り組んでくれました。

高校卒業後のジョベンの進路に関しては、大学進学を希望しているとのこと。大学

を卒業し、良い職業に就き、貧困状態から脱却することをジョベンは目指しているとのことです。ジョベンは大学でホテルやレストランの経営学を学び、ホテル及びレストランマネジメントの理学士の学士号を取得したいという夢を持っています。そのため、今はオロンガポ市にある大学に奨学金の申請を行っています。また、3月には、TESDA²が発行する調理師としての国家認定証の資格試験に挑戦し、見事合格しました。この資格により、レストランなどでのアルバイトの採用に有利に働くとのこと。また、大学入学までの時間を使い、アルバイトをして学費を貯める計画も立てているとのこと。ジョベンは自分の夢を達成できるように、とても前向きに、そして自分自身で努力をしながら歩んでいます。ジョベンの夢が達成できるように、これからも少しでも協力ができればと考えています。

⑤Velasco, Aris (10年生)

10年生となったアリスは中等学校前期過程³の最終学年で勉強を頑張っています。アリスは勉強があまり得意ではなく、成績も赤点のラインである75点前後が多いという結果になっています。しかしながら、出席に関しては非常に優秀な出席率を維持できています。また、課題提出に関しても非常に真面目に取り組んでいるとのこと。その点に関しての先生からの評価も非常に高く、無事10年生を合格し、来年度からは中等学校後期過程である11学年に進学することが決まりました。成績は優秀なものであるとは決して言えませんが、真面目に勉学に頑張る姿勢は、それ以上に評価できるものだと、誇りに思っています。

一方、青空教室への参加は、所々休みがあり、課題となっています。アリスが青空教室への参加をためらってしまう原因のひとつは、彼の性格が内気で、人前で話したり、指揮をとったりすることが苦手だということがあります。現地担当スタッフも、アリスが成長するために青空教室は非常に有効な場となることを説明し、参加を促しているのですが、積極的に参加しているとは言えない状況のままとなっています。しかしながら、参加した際には、他の奨学生のサポートをしっかりとするなど、真面目に取り組んでくれてもいます。アリスが少しずつでもいいので、青空教室を通して自分の短所を克服してくれればと願っています。

家庭状況に関しては、現在、アリスの母親は妊娠中とのこと。家族がひとり増えれば、経済的な状況などにおいて変わってくることも出てくると思いますので、アリスを取

² TESDA：技術教育および技能開発局。フィリピン共和国における専門的教育と技術の向上機関。技能の標準化、評定及び認証のための国家的システムの開発と執行が負託されている。

³ 日本の中等学校教育課程に当たる課程。

り巻く環境を注意深くモニタリングしながらサポートできればと思います。

⑥Chito Nervasa（11年生）

今年度、チトは中等教育後期過程である11年生で勉強に取り組みました。授業内容は中等教育前期過程よりも難しくなり、非常に学業で苦勞をしているとのこと。成績では、第1学期の成績で赤点である75点以下を4教科取ってしまいました。進学できるかどうかは通年（第1学期から第4学期）の成績の平均点や補習などの取り組みで可否が判定されるため、前期での成績を挽回できるように後期は取り組みました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための大統領による緊急事態宣言が発令され、3月の途中で学校が休止となり、期末テストや補習も中止となり、第3学期までの成績結果で進学の可否がくださることとなりました。その結果、チトは1科目赤点となってしまう、来年度も11年生として留年してしまうことになってしまいました。チトの学習態度に関しては、もちろん勉強が得意でないチトにとって後期過程の授業内容は難しく苦勞しているということもありますが、それと同時に、チトの授業に取り組む態度にも問題があると考えています。チトの勉強に対して取り組む態度には波があり、所々で学校を続けて休んでしまう時期があったりもしました。現地担当スタッフも、チトにしっかりと授業に出席し、宿題や課題を提出するように何度もアドバイスをしているのですが、チト自身の課題である自分に甘えてしまうという短所が所々で露呈してしまっています。現在は外出禁止令が出されておりチトと面談を行う機会を持っていないのですが、制限が解除された後に、チトと勉強や卒業に対してどのような思いを抱いているのかと、今後どのようにしていきたいのかなどについて話し合う機会を設けたいと考えております。皆さまに多大な応援をいただきながら、今年度チトが留年してしまうという結界になってしまい、誠に申し訳ございません。外出禁止制限解除後のチトとのミーティングの後、チトの今後について皆さまにもご相談させていただきたいと思っております。恐れ入りますが、どうぞよろしくお願いいたします。

一方で、青空教室には、活動的に参加をしてくれています。チトは恥ずかしがり屋な性格で、人前で話すことがあまり得意ではないのですが、それでも彼のベストを尽くしながら子ども達を指導してくれています。アクティブ中には笑顔も非常に多く、彼自身も楽しみながら子ども達と接してくれています。

チトの母親の話によると、チトは家では非常に大人しく、悩みなどがあっても相談されることはほとんどないとのこと。チトの思いや考えなどをしっかりと聞いてあげながら、一緒に今後どのようにしていきたいかを考え、支えていければと思います。チトにもたくさんの長所があります。そうした長所で、短所に打ち勝っていき、チト自身が

自分の人生で後悔をしないような選択ができればと思います。

【高校を卒業した元奨学生の様子】

Domingo, Precious Jane C., Carlota B. Evangelista, Labana, Jornalyn

プレシャスは、引き続き、家族からの支援を受けながら、大学での勉強に励んでいます。また、カルロータも今年の1月より、大学に入学し、大学での勉強を開始しました。ふたりとも、ソーシャルワーカーになるという目標の達成を目指して、夢に向かって頑張っています。高校卒業後に就職をしたジョルナリンも引き続き工場での仕事を頑張っています。仕事は大変だと言っていました、そのような状況にも負けず、社会人としての自覚と責任をしっかりと持ち、仕事を頑張っています。

今年度は、5名の奨学生が中等教育後期過程（高校）、1名が中等学校前期過程（中学）で学業に励みました。残念ながら、今年度は1名、チトが留年をしてしまうという結果になってしまいましたが、その他の奨学生は無事進級や卒業を果たすことができました。特に、ジョベンは無事高校を卒業し、義務教育課程を修了することができました。本人は本奨学金を受けることができなければ、高校まで卒業することができなかつたかもしれないとも言っており、皆さまから頂いたご支援に対して本当に感謝をしています。また、高校卒業後の夢と目標もしっかりと持っており、夢の実現に向かって力強く進んでくれています。ジョベンが自分の夢を持って勉学に取り組めるようこれまでご支援をしていただき、本当にありがとうございます。日本事務局及びフィリピン事務局スタッフ一同、深く御礼申し上げます。

現在は、新型コロナウイルスの影響によるロックダウンが実行されており、来年度の学校開始時期も保留されている状態です。また、外出も禁止、家族が仕事をできない状態により家計が苦しくなっているなど、奨学生たちは非常に不安定な環境の中での生活を強いられています。今後のはっきりとした見通しも立たないまま、不安なことも多々ありますが、来年度もこども達がより良い精神状態と環境のもとで勉強に励むことができるように、引き続き担当スタッフとともにサポートしていきたいと思っています。

最後になりましたが、今年度もこども達への温かなご支援を賜り誠にありがとうございました。こども達が今後より一層学業に励み成長できるよう、担当スタッフとともに尽力していきたいと考えています。今後も引き続き、温かい目で見守っていただけますと幸いです。どうぞよろしく願い申し上げます。

【青空教室での奨学生の様子】



報告者：山本 浩平（フィリピン事務所現地調整員）

2020年5月8日